

小判切手のカタログコレクション(Ⅰ)

井戸垣 俊弘

消し印(特に抹消専用、それも素朴な拇太(ボタ)印)への興味から、遅ればせながら小判切手の収集を開始しました。ご承知のように、小判切手は発行時期によって旧小判切手 17 種(1876~1879)・旧小判切手 3 種(1883)・新小判切手 10 種(1888~1892)の3つに大別されます。全部でも計 30 種類しかないのですが、製造面・使用面共にバリエーションが豊富な奥の深い収集分野であり、既に多くの立派なコレクションが報告されています。

それを承知の上で始めた、初心者的小判切手消印の学習経過と、拙いカタログコレクションの進捗状況のご報告です。今回は第1回目として、まずは製造面に関して、スミ点付・みほん字入り・用紙別の未使用について概観し、使用面ではカタログに沿ってこれまでに整理した国内印(抹消印・証示印)の幾つかをご紹介します。目ぼしいものがあるわけではなく、消印や小判切手収集の先輩方にとっては退屈で申し訳ないのですが、色々ご教示いただけると幸いです。

■製造面

旧小判切手は、下は額面5厘から 上は50銭までの全 17 種類が7期に分けて発行され、発行時には、それぞれの切手の墨(スミ)点付を貼り付けた「太政大臣布告」が出されています(第3期のみが右大臣布告で、第7期分にはスミ点付切手の貼り付けは無い)。一例として、第4期の布告を【図1】に示しました(布告には洋紙と和紙があるようですが、これは洋紙)。みほん字入り切手については、「文化版の切手発行解説書」に「平仮名のみほん」字入り切手を貼り付けた形で整理した例を【図2】に示しました。新小判3銭の「平仮名みほん」はカタログ値以上の珍品らしくて今回は入手出来なかったので、「漢字見本」で代用しています。この文化版説書そのものが今となってはあまり見かけないものとなっています。

小判切手には9種類の目打ちと 12 種類の用紙が確認されていますが、この用紙の種類を自分の入手済リストを兼ねて【表1】に、また未使用の旧小判版切手の高額面を【図3】に示しました。新小判切手の場合は用紙はエスパルト紙だけなので、目打ちで分類していますが、13目打ちの100面シートと400面シートの区別は出来ていません。このように、製造面と言っても、エッセイ・ブルーフ・定常変種は勿論のこと、使用済みでは目打ちや色調違いもスルーしている入門者の勝手気ままなコレクションです。

■抹消(専用)印

そもそも小判切手を集め始めたのは、手作り感の強い各種のボタ印に興味を持ったからで、この部分だけは少し力を入れて整理してみました。旧小判・旧小判切手時代に使われた抹消専用印の代表的なものは以下の5種類(後期の4つがボタ印)。

- ・記番印(1874~1881): 太枠の円または楕円の中に国名に対応する片仮名と局毎に振られた番号が入ったもので、確認されているのは 76 ヶ国分。
- ・白抜き記番印(1875~1879): 黒い円の中に国名に対応する片仮名と局名を表す番号が白抜きになっているもので、確認されているのは7局。
- ・白抜き十字印(1875~1882): 黒い円の中に十字が白抜きされたもので、14局で使用された。
- ・小型ボタ印(1881.4~1881.10): 黒い円の中に局名の頭文字(ローマ字や片仮名)を白抜きしたもので、13局で使用された。
- ・大型ボタ印(1881.9~1888.8.31): 小型ボタ印より少し大型の楕円形の印。8期に分けて使用が開始されたもので、63局が確認されている。

抹消印については、(1)各抹消印毎に切手の額面揃え、(2)特定の切手での国(局)揃え、という方針で整理しています。この原稿では、例として「白抜き記番印」のリーフ【図4】、旧小判2銭(紫)での「小型ボタ印」の局揃え【図5】、「大型ボタ印」の額面揃え【図6】を示しましたが、他に、旧小判2銭(狸)切手での「記番印」の国揃えや旧小判4銭切手とU小判2銭切手を台切手とした「大型ボタ印」の局揃えを試みています。U小判2銭については「鏡字」や「山家」印以外は完集できていますが、旧小判切手の方はやはり手強くて進捗率は80%程度。【図6】の大型ボタ印の額面揃いが横浜印ばかりなので、それならいっそのことと、全て東京印で統一したリーフも作ってみました。エンタィアは初心者には難しく、記番印や白抜き記番印のカバー【図7】についても色々わからない点がありますので、当日ご教示頂こうと思っております。

■証示印(日付印)

郵便の差出(到着)の場所や日付・時間帯を記録した消印(証示印)の、小判切手における代表的なものは、次の二重丸型日付印と丸一型日付印です。

- ・**二重丸型日付印**(1873~1888.8.31):二重丸円の外円と内円の間に地名(国名・郡名)・日付・便号が入り、内円に局名が入っているタイプ。

- ・**丸一型日付印**(1888.9.1~1905):1本の横線で上下に分割した円の、上欄に国名・局名を、下欄に日付や便号を記入したもの。郵便の集配が1日に1回以下の局では便号欄が空白になっている、各種料金受領を示すための非郵便印として使用された例もあり、単片では用途の判別が難しい。

時間軸が入ることにより郵便情報が飛躍的に増えるため日付印の収集は小判切手の最も重要かつ花形分野です。取りあえずは、二重丸日付印の典型例として N3B3・KG・KB1・KB2 の4種類の印の額面揃え、丸一日付印の黒印・褐色印別の額面揃え、支局印揃え等を試みましたが、日付印の場合は何か具体的なテーマを設定してエンタィアを含めた展開をする方がより愉しめるように思っています(例:丸一下部空欄印の郵便使用と非郵便使用【図8】)。

小判切手の末期には、**丸二型日付印**(1900.12.29~1905)や**櫛型日付印**(1905~)が登場します。ただ、これらはいずれも新小判切手の最後期から使われ始めた消印であり、収集の主戦場は菊切手以降となるので小判切手をテーマにしている現在ではどうしても力が入らず、これらの消印については**丸一型鉄道郵便印**(1889~1905)と同様に手元にあった切手の未整理リーフを各1枚紹介するにとどめました。

■その他

郵便料金の不足分については、その倍額の切手を朱で消して受取人に支払わせることが1875年に定められ、**不定形の未納・不足印**が使われましたが、その後以下の専用印が用いられるようになりました。

- ・**「先拂又ハ不足」印**(1879~1882.12.31):郵便料金の「先払い」や「不足」について、「先拂又ハ不足」と記入した長方形の官給印が使われた。

- ・**「未納」印**(1882.7~1900):1882 からは未納に関しては、長方形の枠内に「未納」と彫られた印(局名無印)が使われたが、1894.2.21 から局名を配したもの(局名入り印)が使われるようになった。

- ・**「不足」印**(1882.7~1900):1882 からは不足に関しては、長方形の枠内の上部に「不足」・下部に「〇銭」と書かれた印が使われたが、1894.2.21 からは局名・国名を表記したものが使われた。

当日は、これらの料金未納印や不足印の額面揃えやエンタィアを紹介します【図9】。収集が難しいと言われる旧小判の未納印には特に力を入れています。

極めて初歩的なカタログコレクションですが、私個人としては小判切手や消印収集の面白さが少し味わえたような気がしています。今後は、この続きとして外郵便や各種の非郵便印、更にはU小判2銭(赤二)切手に特化したうえでもう少し個性的なコレクションをご紹介出来ればと考えている次第です。

太政大臣布告・明治10年第59号(1877.8.18)

旧10銭・30銭・45銭のスミ点付3種貼り



【図1】 太政大臣布告・明治19年第59号(1877.8.18)。旧小判10銭・30銭・45銭のスミ点付3種貼り付け

普通切手

旧小判 (一)

"KOBAN" SERIES, FIRST ISSUE, PART 1



航空機を印面に描いた世界最初の切手
通称「風船十二銭」



種類	刷色	発行日
五厘	灰青色	明治九年五月十七日
一銭	黒青色	明治九年五月十七日
一銭(改色)	赤褐色	明治十二年十月十七日
二銭	オリーブ色	明治九年五月十七日
二銭(改色)	暗紫色	明治十二年十月十七日
三銭	橙黄色	明治十二年六月三十日
四銭	青緑色	明治九年六月三十日
五銭	淡黄色	明治九年六月三十日
六銭	淡褐色	明治十年六月二十三日
八銭	淡青色	明治十年六月二十三日
十銭	淡青色	明治十年六月二十三日
十二銭	淡青色	明治十年六月二十九日
十五銭	黄緑色	明治十年六月二十九日
二十銭	淡青色	明治十年八月十八日
三十銭	淡紫色	明治十年八月十八日
四十五銭	淡紅色	明治十年八月十八日
五十銭	濃紅色	明治十二年六月三十日
印面の大きさ	縦二・五ミリ、横一・〇ミリ	
シートの構成	縦八枚又は十枚、横十枚の八十面版又は百面版	
版式	縮刻銅凸版	

先に紙幣で雇い入れた元駐乙種郵便局長、カール・アントン・ブリュック (Karl Anton Bruck)、伊太利人エドアルド・キヨソネ (Edoardo Chiosone) 等により、従来の手彫銅版を電版法による精巧な銅凸版に改められ、十七種の切手が逐次発行された。此の切手は印面一杯の構図の中に菊花御紋章、太陽、料簡文字等を表わしてゐるので小判切手といわれ、明治十二年十月十一日発行の一銭及び二銭切手までを旧小判切手といわれる。

旧小判



R 10

【図2】文化版の切手発行解説書とみほん切手の例

旧小判切手(Ⅳ)

15 銭



エスパルト紙 (11×10)



中期白紙 (81/2)



後期普通紙 (13)

20 銭



無地紙 (10)



中期白紙 (81/2)



後期普通紙 (13)

30 銭



無地紙 (10)



中期白紙 (10)

45 銭



無地紙 (10)



中期白紙 (10)



中期白紙 (81/2)

50 銭



白色薄紙 (11N)

○

木綿・粗紙



中期白紙 (10)



後期普通紙 (13)

【図3】 旧小判切手の高額5種。50銭(木綿・粗紙)は未入手

旧小判切手の白抜き記番印

白抜き記番印の使用例としてカタログに記載のあるのは、旧小判切手の全17額面の中で未確認もしくは残存数が少なすぎて評価不能のものを除くと、1銭(黒)・2銭(狸)・4銭・5銭・6銭・10銭・12銭の7額面のみである。



旧小判 2 銭(狸)切手での白抜き記番印揃え

白抜き記番印使用局は全国で7局が確認されているが、以下は旧小判 2 銭(狸)切手を台切手としてその局揃えを試みたものである。



【図4】 白抜き記番印のリーフ。「イー(東京)」印は小判切手では未確認

旧小判 2 銭(紫)切手での小型ボタ印揃え

小型ボタ印の使用例は鏡字を加えると 15 種。以下は旧小判 2 銭(紫)の子型ボタ印 15 種全揃い。



【図5】 小型ボタ印の鏡字を含めた全局揃え(台切手は旧小判2銭・紫)

旧小判・U小判切手の大型ボタ印

旧小判切手



5 厘／横浜



1 銭黒／東京



1 銭茶／金沢（鏡字）



2 銭狸／横浜



2 銭紫／神戸



3 銭／横浜



4 銭／鳥取



5 銭／神戸



6 銭／松江



8 銭／鹿児島



10 銭／金沢



12 銭／横浜



15 銭／横浜



20 銭／長崎



30 銭／横浜



45 銭／東京



50 銭／岐阜

U小判切手



1 銭／仙台



2 銭／京都



5 銭／神戸

【図6】 大型ボタ印の額面揃え

白抜き記番印押印のエンタイア



旧小判2銭(狸)1枚貼り
白抜き記番「子一(大坂)」
+KB2 摂津・大坂(7.5/ち)
→ KB1 尾張・名古屋(7.7/朝)



旧小判2銭(狸)1枚貼り
白抜き記番「イケー(箱館)」
+KG 渡島亀田・箱館(12.15)
→ N2B2 東京(9.12.17/ぬ)

【図7】 白抜き記番印「子一(大坂)」と「イケー(箱館)」のエンタイア。後者は現存数20通程度の貴重品で、この明治9年12月15日便が最終使用例である

丸一型日付け印(下部空欄)押印のエンタイア



U小判2銭4枚田型貼り(手紙 2 通入り)

丸一: 渡島・鹿部(25.6.26/空)

→ 丸一: 佐渡・新町(25.7.2/イ)



U小判2銭単貼り

丸一: 対馬・曾村(22.1.29/空)

→ 丸一: 周防・日前(22.2.7/空)

【図8】 丸一型日付(下部空欄)印の郵便使用を示すエンタイア。左は、差出印だけ下部空欄、右は差出印・到着印共に下部空欄

不足印のエンタイア



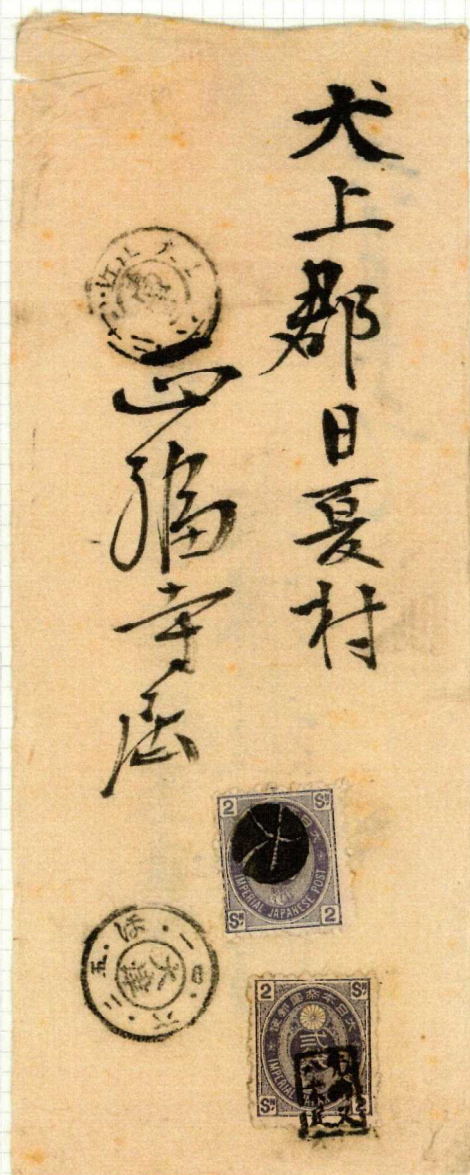
旧小判2銭(紫)3枚貼り

大坂大ボタ+dN3B2(15.1.5/い)

→ 大和の広瀬群 到着印なし

不定形「税不足」印と

(封表に証示の不定形「**税先拂**」印)



旧小判2銭(紫)2枚貼り 僻地(へきち)便

大津小ボタ+dN3B2(14.6.25/ほ)

→ KG 近江犬上・高宮(6.27)

「先払又ハ不足」印

【図9】 不足印のエンタイア。左は不定形の「税不足」印，右は僻地便における「先払又は不足」印

小判切手の額面別用紙

■旧小判切手

1. 5厘：
2. 1銭(黒)：
3. 1銭(茶)：
4. 2銭(狸)：
5. 2銭(紫)：
6. 3銭：
7. 4銭：
8. 5銭：
9. 6銭：
10. 8銭：
11. 10銭：
12. 12銭：
13. 15銭：
14. 20銭：
15. 30銭：
16. 45銭：
17. 50銭：

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L
1. 5厘：	●	●	●		●	○	●					
2. 1銭(黒)：	●	●	●	●	●							
3. 1銭(茶)：			●		●	●	●					
4. 2銭(狸)：	●	●	●	●	●							
5. 2銭(紫)：			●		●	●	●					
6. 3銭：				●	●	●						
7. 4銭：	●	●	●	●	●	○	●	●	●	●		
8. 5銭：	●	●	●	●	○	●						
9. 6銭：		●	●						●	○		
10. 8銭：		●	●		○	●	●	●	●	●		
11. 10銭：		●	●	○	●	○	●	●	●	●		
12. 12銭：		●						●				
13. 15銭：		●						●		●		
14. 20銭：			●					●		●		
15. 30銭：			●					●				
16. 45銭：			●					●				
17. 50銭：				●		○		●	●			

■U小判切手

1. 1銭：
2. 2銭：
3. 5銭：

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L
1. 1銭：						○	●	●	●	●		
2. 2銭：						○	●	●	●	●		
3. 5銭：						△	●	●	●	●		

■新小判切手

- 1～9.：
10. 1円：

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L
1～9.：									●	●		
10. 1円：											●	●

記号の説明

A：厚手無地紙
B：エスパルト紙
C：無地紙
D：白色薄紙

E：木綿（茶）紙
F：木綿（粗）紙
G：ワラ紙
H：中期白紙

I：後期普通紙
J：最後期普通紙
K：薄手エスパルト紙
L：厚手エスパルト紙

【表1】 小判切手の額面別の用紙リスト(○は未入手・●は入手済み・△は未使用のものは未確認)